

= 上空からみた女堀。画面中央に上下に走るのが女堀。画面手前（下部）が飯土井地区で、画面上部の左右に蛇行して走る森に沿って神沢川が流れている。その神沢川を境にして画面上部が東大室地区。右手の沼は飯土井沼。この沼に接し女堀と平行して走る細い道が東山道。画面右上端に波志江沼がみえる。

= 飯土井地区の景観。 = 同、発掘調査後の状況。 = 東大室地区。溝内に未掘部分が見られる。南側の旧地表面には畠跡や排土の搬出路と排土の山が残っている。 = 同地区未掘部分に残された小間割跡。 = 土層断面に現れた火山灰の堆積状況。上から二枚目が1108年噴出の浅間B軽石層。 = 飯土井地区の工区境。(能登)



図2 - 女掘・東大室地区発掘平面図(部分)

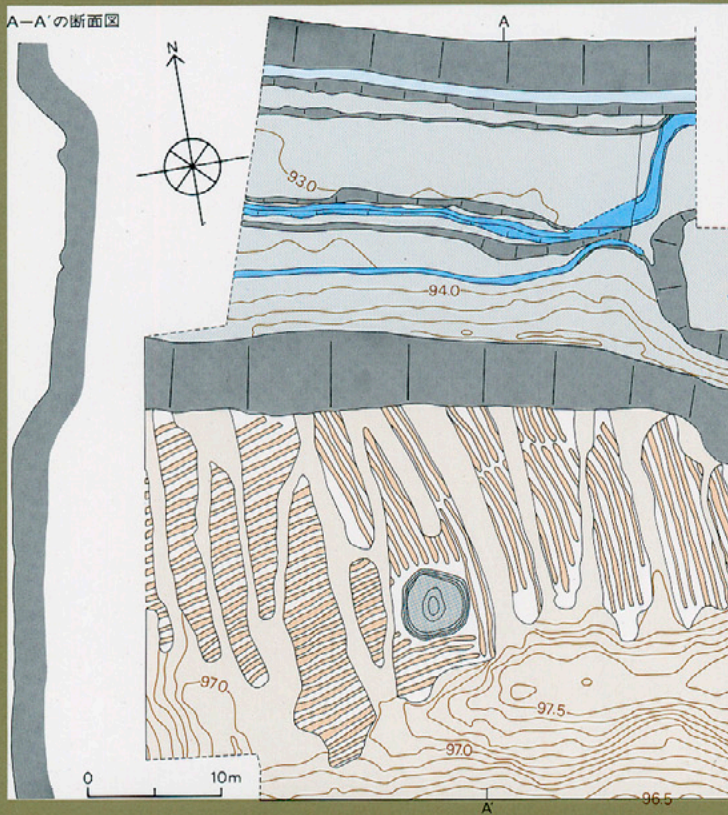


図3 - 女掘・飯土井地区発掘平面図(部分)

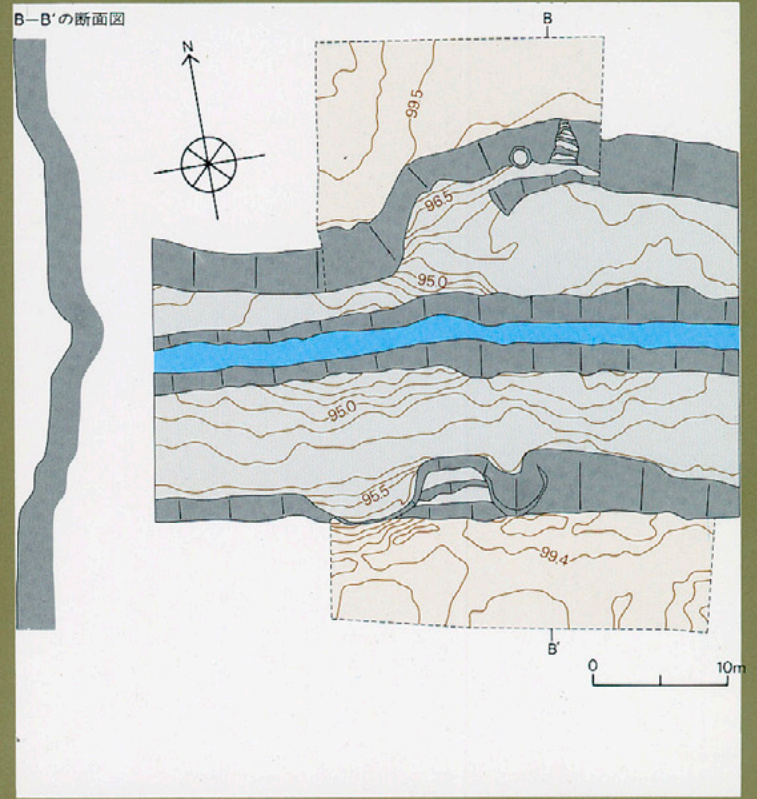


図1 女掘・東大室地区現状図

東大室地区は、神沢川と石山丘陵にはさまれている。神沢川両岸では、女掘渡河点の構造を調査したが、この部分は、神沢川の浸食によってすでに破壊されていた。石山丘陵付近では、上面幅に食い違いが観察され、工区境が想定された。丘陵西端に沿って小規模な谷地があり、女掘開削時にはこれを切断することになる。現在、表流水は女掘内北側の渋沢と、土橋で南側へ流されている。調査の結果では、工事中に流入した谷地の流水は、小溝を設けて神沢川へ処理していたことが判明している。女

堀の排土は南側に集中しており、この地区でも例外ではない。これは、女掘の掘削が北側から進められているためで、そのために排土が南側に集中したのである。

図2 女掘・東大室地区発掘平面図(部分)

東大室地区は380mにわたって調査された。溝底部で工事未了の状況が観察できる。表土・中段・下段の工程で、それぞれ北半から掘削されている。北半の掘削深は旧表土から約4mで、ここでは南半下段が約1m掘り残されている。南半未掘部分に残る第1溝は湧水処理溝で、第2溝は石山丘陵西端で切断した谷地表流水を処理する溝

である。南側堀外では排土下旧表土面で鼠跡が検出された。鼠の中央には環状の根切溝をもつ立木跡もある。鼠の上には排土の搬出路が数多く見られ、表土の排土は堀から最も遠い部分に置かれている。

図3 女掘・飯土井地区発掘平面図(部分)

飯土井地区は250mが調査された。工事完了の工区で、掘削深を25mとし、中央に幅4m深さ2mの通水溝を設けて計画深度を取っている。法面には排土搬出の階段がある。図示した部分は工区境で、西側工区は上面巾15m、東側工区は20mと食い違っている。(能登)

図1 - 女掘・東大室地区現状図

